

山添村古文書調査だより

奈良大学文学部史学科研究チームと山添村教育委員会による共同調査・研究

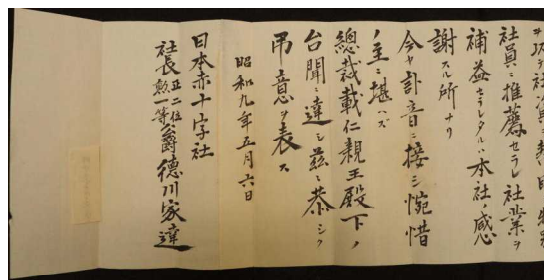
2024年2月27日（火）～28日（水）の2日間にわたって、山添村教育委員会のご協力で古文書調査を実施することができました。奈良県山辺郡山添村での古文書調査は、18回目となり、2015年3月の初回以来、10年目に入りました。

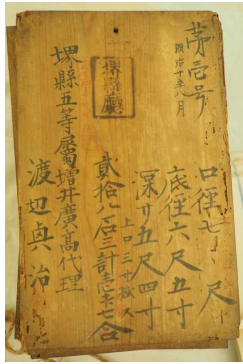
今回も調査場所として山添村生涯学習施設 東豊館（東豊ベース）を使用させていただくことができました。

上津村中西家文書は、2022年9月から整理作業を続けているもので、これまでも非常に興味深い史料がいくつも確認されています。今回の調査では、中西家の「図書目録」を確認できました。第1類「漢籍之部」は四書五経から始まり、『十八史略』『春秋左氏伝』など近世以来の「知」の基本である漢籍が並びます。興味深いのは第2類「洋書之部」で、『スペルリング』『スペルリング独案内』『ニューナショナル第一リーダー』『ニューナショナル第一リーダー独案内』などが並びます。購入は明治21年で、いずれも奈良坂田購文堂で購入されています。『スペルリング独案内』は、ウェブストル著・渡辺重綱訳で明治20年に松林堂から刊行された英語のスペルリングの入門書。『ニューナショナル第一リーダー』は、各地の学校で英語教材として盛んに用いられていた1883年刊のBarnes's New National Readers Number 1か、それを国内で復刻したものだと思います。『ニューナショナル第一リーダー独案内』は明治19年刊の島田奚疑によるものなど、同種の独習用教材が刊行されています。このほか、英語教材としても広く用いられたスウイントン『世界史概説』（スウイントン

『万国歴史』）やスマイルズ『自助論』なども見えます。前回の調査では明治21年からの書籍の購入記録である「所蔵書籍録」があり、蔵書形成過程の一端を知ることができましたが、今回の「図書目録」で蔵書の全体像を見渡すことができるようになりました。近世以来の漢籍による教養を基礎としながら、西洋近代の知識を取り入れようとした近代在村知識人の蔵書形成過程を知ることができそうです。

また、昭和9年5月に行われた17代目中西樞治郎の葬儀で読まれた弔辞が一式で保管されていました。弔辞を寄せていたのは、立憲政友会奈良県支部長岩本武助、春日小学校長富村直造、大和山林会会頭児玉政介、日本赤十字社社長徳川家達、奈良県蚕種業組合長木口常治郎などです。樞治郎





は村会議員などを経て県会議員となり、水力発電の事業を進めていたことなどもわかっていました。活動を通して培われた幅広い人脈をうかがわせます。今回の調査でも、水力発電事業に関する史料がありました。

そのほか、堺県が発行した11枚におよぶ鑑札も目をひきました。口径・底径・深さなどが記されています。中西家では酒造業を行っていたとのことで、これは酒造の営業鑑札と思われます。

また、近世では幕末に領主奥田家に上津村から銀を貸していたことを示す証文がまとまって残っていました。さらに、中西家には甲冑（当世具足一式）が伝わっていました。これらの史料は、近世期における中西家と領主の関係を考える上でも重要な史料となるでしょう。ほかにも中西家の活動を伝える多様な史料がありました。

中西家文書に加えて、今回は勝原区有文書などの調査も開始することができました。勝原区有文書は、昭和期を中心とした近代の行政文書が大半のようで、多くが綴りとして整理されていました。引継目録も残されているのですが、ここで興味深いのは文書類とともに「重要什物類」として記されていたものです。愛宕掛図は、愛宕講が行われていたことをうかがわせます。さらに「翁



面箱入」が引き継がれていました。山添村春日の春日神社や月

ヶ瀬村桃香野の八幡神社など大和東山中の神社では翁舞が行われているところがあります（徳江元正「大和山村に残る中世芸能の断片」『室町藝能史論攷』三弥井書店、1984年）。勝原での詳細説明が待たれます。



今後、文書調査が進み全体像が明らかになっていけば、上津・勝原のみならず山添村や奈良県の歴史について、さらに色々なことが明らかになってくると思われます。

今回も日帰りのため作業時間も少なくなりましたが、参加学生のみなさんの努力により、調査は予想以上に進捗しました。

中西家文書で整理をしたのは、箱8が147～171＋未整理415点、箱9が102～115＋未整理349点、箱10が113～173、箱11は未整理1,255点、箱12は1～33、箱13は1～7＋未整理457点、箱14は1～28＋未整理316点、箱15は1～3、箱16は1～18＋未整理85点、箱17は1～23＋未整理136点、中西家甲冑です。現時点で中西家文書は、未整理分も合わせ5,300点を超えています。

このほか、北野消防団文書が1～18、勝原区有文書は箱番なし2点、箱1が1～69、箱2が1～75、箱3が1～66（作業未了）、箱4が1～101（作業未了）。2日間で総計543点のカードをとることができました。

調査参加者は、本学学生有志延べ36名（27、28日とも18名）です。教員は井岡康時、河内将芳、木下光生、外岡慎一郎、森川正則、村上紀夫の5名があたりました。

山添村での調査は今後も継続していきたいと考えています。調査にあたって便宜を図って下さったご所蔵者と山添村教育委員会の皆様にお礼申し上げます。

